

2012年3月23～25日の交流ワークショップ and ボランティア ～四日市東日本大震災支援の会 第10回派遣～

四日市東日本大震災支援の会
代表 鬼頭浩文

2011年4月1日に立ち上げた四日市東日本大震災支援の会は、昨年5月2日より宮城県東松島市において災害ボランティア活動を行ってきた。7月にニーズの収束がみられ、災害型の派遣は終了した。その後半年の休止期間を経て、2012年2月より、仮設住宅中心に生活復興を支援する交流型のボランティア派遣を行うこととした。第10回目の派遣となる今回の活動は、三重県の高校生・大学生が現地の高校生・大学生と支援のあり方について考えるワークショップを開催し、ともに仮設住宅で交流ボランティアを行うというものである。金曜の夜に四日市を出発して大型バス満載で宮城県に向かい、早朝より激甚被災地を視察、午前中に交流ワークショップ、午後に仮設住宅での交流会、全員で夕食会を行った後、大型バスで四日市に移動、帰着後の午前に四日市大学で現地での活動報告会を開催するという、とてもハードな日程となった。

<参加者 44名>

四日市大学	学生 8名+教員 1名
四日市看護医療大学	学生 4名+教員 3名
高田短期大学	学生 5名+教員 1名
暁中学高等学校	生徒 7名+教員 1名
桑名北高等学校	生徒 7名+教員 1名
四郷高等学校	生徒 3名+教員 1名
四日市市危機管理室	行政職員 2名

<目標>

三重県の学校単位で数名のチームを編成し、それぞれが東松島市を中心とするエリアの学校をパートナーとして交流ワークショップを行う。また、仮設住宅の被災者交流のためのボランティア活動も、ともに行う。この交流を通し、現地の高校生・大学生とともに私たちにできる東北支援を考え、さらには近い将来に予想されている東南海地震への備え(受援力)をするきっかけになればと考えている。

<スケジュール>

3月 23日(金)	20:00	四日市大学出発
24日(土)	06:00	宮城県東松島市 野蒜地区～石巻市の激甚被災地の視察
	09:30	現地の学生・生徒との交流ワークショップ and 仮設住宅戸別訪問 *四日市・四日市看護医療・高田短期・石巻専修・東北学院 *桑名北&石巻北、四郷&石巻西 *暁中学高等学校：仮設住宅を戸別訪問し交流会の告知 and 交流
	13:00	交流イベント(矢本運動公園仮設住宅東集会所) *四日市看護医療大学(血圧測定・足湯マッサージ) *四日市大学(茶話会：伊勢茶と四日市の和菓子) *高田短期大学(キッズコーナー：絵本読み聞かせ・工作など)
25日(日)	08:00	四日市大学帰着 ⇒ 朝食会 and 情報交換(四日市大学9号館9102教室) *四日市大学ボランティア部による、おかえりなさい朝食会 *6つの学校から、現地活動の感想と被災者との交流について報告 *現地で撮影した写真を披露しながら、各学校の活動について報告 *引率教員による活動講評
	11:00	解散

<現地での活動概要>

－被災地の視察－

東松島市の野蒜地区、大曲浜地区、石巻市門脇町をバス車内から視察し、門脇小学校前で降車して激甚被災地の現状をみた。津波で壊滅的害を受けたエリアには、まだ全壊した家屋が残っており、土台だけになった場所でも、破壊された小さな生活道具などが散見された。

－交流ワークショップ－

三重県からは四日市大学、四日市看護医療大学、高田短期大学が、宮城県からは東北学院大学、石巻専修大学が参加し、ボランティア活動報告とディスカッションを行った。また、三重県の桑名北高校が石巻北高校を訪問、四郷高校が石巻西高校を訪問し、交流とワークショップを行った。

－仮設住宅訪問－

三重県から参加した暁中学高等学校が中心となり、約 400 世帯の仮設住宅を戸別訪問した。暁中学高等学校の生徒が外側にメッセージを綴った紙袋を用い、午後から企画していた交流会の案内状・メッセージ・伊勢茶・入浴剤を同封し配布した。途中からは、現地の小学生とも一緒に戸別訪問することができた。また、暁中学高等学校の生徒による手作りのメッセージ額を矢本運動公園仮設住宅自治会に贈呈した。

－足湯マッサージ－

足湯の方法は、好みに応じて入浴剤を入れ、お湯の中で足のマッサージを行うものであった。足湯後、皮膚の状態に応じて保湿クリームを使用した。また、高校生に協力してもらい肩揉みやハンドマッサージを一緒に行った。必要となる一人当たり 10 リットル 42 度のお湯は、四日市大学が持ち込んだ LPG ガスによって沸かした。使用後の足浴専用バケツは、桑名北高校が中心となりその都度洗浄した。

－血圧測定－

日常生活での健康状態を問診後、血圧測定を実施した。日常生活や健康面の話のなかで「仮設住宅に住む人はみんな同じような不便や不満を抱えているので、文句を言うわけにはいかない」という意見が多く聞かれた。仮設住宅のコミュニティで生活する人々は、誰しもがこのようなストレスを感じているのかもしれない。

－子どもと遊ぼう！－

高田短期大学が、子ども対象の工作・ゲーム・絵本読み聞かせ・合唱などを企画した。他の高校生・大学生も加わり、たくさん子ども達と一緒に、笑顔があふれる交流会になった。

－お茶会－

四日市のお菓子とお茶で、仮設住宅の皆さんと交流し、被災時のことや、その後の不自由な生活について聞かせていただいた。



<写真館>



大学生によるワークショップ



高校生と子供たちとの交流



看護足浴 and 高校生肩もみ



桑名北高 and 石巻北高の交流



暁中高の生徒 and 現地大学生



バックヤードで足浴を支える



四郷高 and 石巻西高の交流



まだ被災の爪痕が残る



戸別配布したメッセージ封筒



暁中高の 400 世帯戸別訪問



明るい笑顔の奥にある悲しみ



片道 12 時間の弾丸ツアー



高田短大 and 子供たちの桜



おかえりなさい朝食会



三重リーダー and 宮城リーダー
両方とも「さやか」偶然一致